東京合同法律事務所
東京合同法律資団
東京都港区赤坂２丁目２番21号
永田町法曹ビル
TEL03（3586）3651　FAX03（3505）3976
http://www.tokyo-godo.com/

東京合同 法律事務所 ニュース



おわら風の盆
優雅な踊りと哀愁をおびた胡弓の音

随想



弁護士　松島　暁

夏の風物詩に「盆踊り」があります。大辞林には、「盆踊り」というのは、もともとは、盂蘭盆の前後に、年に一度ご先祖様を迎えたり送り返す行事だったものが、現在ではその信仰性が失われ、多くは娯楽的な踊りとなっていると記されています。

盆踊りといえば、まずは徳島の「阿波踊り」。豪華で華麗なその踊りは「Ｔｈｅ盆踊り」といって良いでしょう。東京の高円寺をはじめ徳島以外の多くの地でも踊られていて、それらの「連」が本場徳島に遠征するなど、その規模は圧倒的です。他方、岐阜県郡上市（郡上八幡）の「郡上踊り」は開催期間が三〇日間にも及び、全国から踊るために人々が郡上市に集まります。阿波踊りや郡上踊りよりも古い七〇〇年の歴史を持っているのが、秋田県羽後町の「西馬音内盆踊り」です。編笠や黒頭巾で顔を深く隠し、手足をしなやかに動かすその優美な踊りは、精霊との出会いという盆踊り本来の踊りのように私には感じられます。

ただ、私にとって最も身近な盆踊りといえば「おわら風の盆」です。八尾町（現富山市）で、立春から二一〇日目にあたる九月一日から三日間、開催されるのが「おわら風の盆」です。諏訪町、東町、西町など一一の町内が、揃いの浴衣を着て、格子戸の民家や土蔵が残る石畳の町を流す姿はとても優雅で幻想的です。また、盆踊りの伴奏には普通、笛や太鼓、三味線という組合せが多いのですが、おわら節には胡弓という楽器が使われ、その奏でる哀愁をおびた旋律はたまらなく美しいものです。

八尾町の住民ではなくとも私たち富山県民は夏の盆踊りではこのおわらを踊るのが習慣でした。私も小さい頃から近所のお宮さんの境内で村の大人が踊るおわら踊りを見て育ちましたし、高校の体育の授業では、基本の豊年踊りが正式に教授されもしました。教師から模範演技者に指名された本場八尾中学出身のＵさんの踊り、しなやかな手指のなんとも優雅な踊りで見惚れたものでした。

このおわら風の盆は、もともとはローカルな踊りで観光客もさほど多くありませんでした。風の盆を全国区にしたのは、金沢の四高出身で直木賞作家の高橋治さんが書かれた『風の盆恋歌』（新潮文庫）でしょう。学生時代、内灘闘争に加わったとおぼしき一組の男女が、年に一度の風の盆に逢瀬を重ね、悲劇の最期を遂げるという物語で、ＴＶドラマ化されたり石川さゆりさんが同名の曲を歌うなどして一躍有名になりました。

古い事務所ニュース（一九八五年一〇月二五日、第五三号）に高橋治さんが登場されていて、同窓の故中田直人弁護士、若き日の前川雄司弁護士とともに、白鳥事件や水俣病、小説作りの裏側などが語られています。

八尾の街並みの精緻な描写からはじまるこの物語、風の盆を愛した高橋治さんならではの作品で、優雅で情感溢れる踊りと音楽がなければ生まれなかった作品のように思われます。



越中八尾　おわら風の盆

道の駅 ―地域と人が出会う場所

弁護士　小河洋介



千葉県柏市にある「道の駅しょうなん」

最近、出張で地方に行くことが多いのですが、出張先でその地域の野菜と果物を味わうことを密かな楽しみとしています。その際に立ち寄るのが「道の駅」です。

「道の駅」の棚に並ぶ野菜や果物、お菓子、お酒、手作りの品々には、その土地で暮らす人たちの息づかいがそのまま宿っています。観光客にとっては地域を知る入口になり、地元の人にとっては気軽に立ち寄れる安心の場です。

また、「道の駅」は、住民、観光客、事業者、行政が自然に交わり、人と人が出会い、つながる場所でもあります。災害時には拠点として機能することもあり、地域の安心を支える役割も果たしています。

全国にはそんな「道の駅」がなんと1200以上存在するそうです。地域と人が出会う「道の駅」。そして、私の（地域の野菜と果物を食したいという）欲を満たしてくれる「道の駅」。まだまだ訪れるべき場所が多そうです。